



台湾ドキュメンタリー映画

『島から島へ』

第二次世界大戦中、日本の植民地支配下にあった台湾。その日常生活に、当時の日本帝国主義がどれだけ深い影響を与えたのか。

マレーシア出身の監督が東南アジア各国の“島から島へ”と撮影を重ね、世代を超えて紡がれていく記憶とアーカイブ資料（口述歴史、家族の手紙、日記、映像）によって浮き彫りにするドキュメンタリー。台湾のアイデンティティや、現在のアジアにおける台湾の役割・位置づけを理解する上で必見の1本。

2024 年台北金馬獎で最優秀ドキュメンタリー賞、さらに 2024 年台北映画賞で年間最優秀映画賞と最優秀ドキュメンタリー賞を受賞。

由島至島
From island
to island



〈監督プロフィール〉

廖克發 ラウ・ケクファット

マレーシア出身、台湾を拠点に活動する映画監督。デビュー作『Boluomi』（2019）は、釜山国際映画祭のニューカレント部門で上映され、金馬獎の最優秀新人監督賞にノミネートされた。このプロジェクトはタレンツ・トーキョー・アワード 2015 を受賞し、2013 年には台湾で最優秀脚本賞を獲得。また、ラ・ファブリック・デ・シネマ・デュ・モンドに選出された。短編映画『Nia door』は、釜山国際映画祭で最優秀短編映画賞とソングジェ賞を受賞し、38 回クレルモンフェラン国際短編映画祭に選ばれた。



9 月 15 日（月・祝）

11:30 開場

12:00～18:00 （途中休憩有）

進行：坪田＝中西美貴（上智大学アジア文化研究所客員所員）

場所：上智大学四谷キャンパス 6 号館 101

申込：Google フォームより

締切：9 月 11 日 当日受付可 参加費無料



主催：上智大学グローバル・コンサーン研究所

共催：上智大学アジア文化研究所

